

70回から84回展までの国画会版画部の活動状況

1996年国展70回記念展後、世の中はバブル（80年～90年代初頭の好景気）が崩壊し経済界、美術界の風向きが変わった。版画ブームは去り、美術界全体が冷え込む。60年～90年代初頭的美術界の前向きな姿勢は消え啓蒙、団体無用論という言葉も静かになった。

1992年 岩手県在住、阿部陽子会員の尽力により「盛岡展」開催。本展の出品作を展示。岩手日報新聞社と国画会版画部の主催で国画会版画部展を東北に於いて30年ぶりに開催。観覧者も多く好評利に終わる。

1990～1996年 版画部展及び国展版画部受賞者展を東京銀座JBCギャラリーの協力で始まる。その後97年から現在に至り、国画会版画部主催で東京銀座・地球堂ギャラリーの協力で毎年開催中。

◎96年国画会全体として日本橋、高島屋デパートで、「自然保護のため」チャリティーを開催、地球環境基金に20,117,900円寄贈する。

その後、毎年国展開催会場で各部チャリティーをおこないNHKと朝日新聞社を通じて（財）日本自然保護協会へ毎年150万円寄贈している。

1997年 リレー講演会「三人三様、私の世界」開催。版画部からの講演者、栗山 茂会員。99年いわたきよし会員。2001年は熊谷吾良会員の出演。

◎97年11月平塚運一会員（101才）齋藤 清会員（93才）亡くなる。

◎版画部は独自の機関誌を世古剛編集長のもと年1回刊行する。**1998年** 故齋藤 清会員、国画会の総会にて国画会で15番目の客員に推挙される。

2001年 21世紀紀元年版画部は平塚運一賞を新設。第1回受賞者に竹原仁子氏が受賞する。

◎長野県上田市で福田義孝氏のプロデュースで信濃毎日新聞社、朝日新聞社、上田市教育委員会後援のもとに「第75回国画会版画作家展を開催」。

◎75回記念展、東京都美術館にて特別展示される。

品川 工、サイトウ良、白鳥 勲、星野美智子、前田政晴、増田陽一、各々会員の力作が展示される。選出されたメンバー＝赤星啓介、小原喜夫、嶋田善雄、鈴木修一、澄 和子、世古 剛、米倉 泉、竹原仁子、中西茂幸、政森暁美、松江喜代寿、山口雅三会員・準会員の作品が展示される。

2003年 北海道の木村多枝子会員、内藤克人会員と準会員、一般出品者の皆様の3年間の努力で国画会版画部としては、北海道では初めての「03国画会版画部札幌展」が開催された。

◎パネルディスカッション「可能性―21世紀の公募展」東京都美術館講堂で開催。ゲスト瀬木慎一氏（美術評論家）、田中三蔵氏（朝日新聞文化部編集委員）による美術団体の起こりから美術界の現状を語る。

◎版画部奨励賞新設。斉藤郷子氏が第1回受賞者となる。

2004年 パネルディスカッション「自然と人間、スローにアクト」ゲスト戯曲作家、別役 実氏講演の後、討論会。パネリストとして版画部からは星野美智子会員出演。

2005年 パネルディスカッション「これからの表現と領域」として討論会開催、コーディネーターとして版画部のサイトウ良会員。パネリストとして小原喜夫会員、内藤克人会員が出演。

2006年 パネルディスカッション国立新美術館における「表現の可能性」というテーマで各代表の討論会。版画部からは

サイトウ良会員が出演。プロデュースは版画部が進行、委員長として園城寺建治会員が担当。

◎現在の国画会版画部の会員・準会員の世界での活躍は、ポランドのクラクフ、スペイン、ドイツ、ブルガリア、マケドニア、ルーマニア、インド、台湾、韓国等、米国はテロの防衛の為、国際展は全面中止されているが他の国は開催されている。その中で常連入選者を拾ってみると増田陽一、サイトウ良、星野美智子、鈴木修一、白鳥 勲、工藤忠孝、米倉 泉、三好まあや、内藤克人、仁科恵実の会員の面々と堀 宗照、穂積千幸、三島英嗣の準会員の活躍がみられる。国際展の活躍は各人の自信と発展に繋がるのではないだろうか。

◎技術の発展としては木版を中心に銅版、リトグラフ、シルクスクリーン、CG等、特に星野美智子会員のウォータレストグラフの新しい技法の普及、また嶋田善雄会員のコラグラフの指導など、今後の発展に期待するところである。

◎長峰 斉準会員の努力による国画会版画部の「特別沖縄展」が開催された。

2007年 「国立新美術館」に移転「81回国展」開催。版画部は国画会を通過した物故作家平塚運一、恩地孝四郎、棟方志功、畦地梅太郎。招待作家として天野邦弘、黒崎 彰、日下賢二、岩見礼花：他。その他の作品を東京六本木に完成する「国立新美術館」移転記念として展示する。特に棟方志功の「湧然する女達々」の作品は、日本人がはじめてサンパウロの国際展でグランプリを受賞した作品であり、圧巻であった。

◎星野美智子会員の協力で、アルゼンチン国立版画美術館よりアルゼンチンを代表するアーティストの版画20点を移転記念として展示する。

◎国画会版画部図録に美術評論家の瀬木慎一氏とアルゼンチン共和国在日全権大使ダニエル・D・ポルスキ氏、及びアルゼンチン国立版画美術館館長パトリシア・コーエン氏のメッセージを掲載する。

◎国画会全体として第1回トークイン始まる。版画部のトーク者へ青木鐵夫、廣江嘉郎、増田陽一、三村博司、サイトウ良、米倉 泉の各会員へ版画の技法と制作意図等解説。

◎「国展」入場者数10万人の観覧者であった。

2008年 第82回国展トークイン、版画部トーク者へ米倉泰民、阿部陽子、前田政晴、松江喜代寿、鈴木修一の各会員へ。主催国画会、国立新美術館。後援文部科学省、東京都教育委員会。

◎版画部受賞者展・版画部作家展（地球堂ギャラリー）

2009年 第83回国展トークイン、版画部トーク者へ木村多枝子、安井丸男、角田元美、山下進一郎、星野美智子の各会員へ。主催国画会、国立新美術館。後援文部科学省、東京都教育委員会。

◎版画部受賞者展（地球堂ギャラリー）

2010年 第84回国展トークイン、版画部トーク者へ園城寺建治、世古剛、小原喜夫、工藤忠孝、竹原仁子の各会員へ。主催国画会、国立新美術館。後援文部科学省、東京都教育委員会。

◎十二月「故品川工会員の作品を囲んで偲ぶ展」を開催。国画会版画部主催・東京銀座・地球堂ギャラリー協力

◎版画部受賞者展・版画部作家展（地球堂ギャラリー）

2010年第84回国展

（文責 国画会版画部会員 サイトウ良）